

1 概要

(1) 調査の目的

「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」（実施要領より）

(2) 実施日 平成30年4月17日（火）

(3) 対象学年 第3学年

(4) 実施教科等 国語A（主として「知識」に関する問題）・国語B（主として「活用」に関する問題）  
 数学A（主として「知識」に関する問題）・数学B（主として「活用」に関する問題）  
 理科（主として「知識」に関する問題・主として「活用」に関する問題）

(5) 質問紙調査 学習意欲、方法、環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2 実施教科等における全国・埼玉県・狭山市・本校の平均正答率（小数点以下四捨五入）

平均正答率	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国	76	61	66	47	66
埼玉県	75	61	65	47	65
狭山市	74	58	65	46	63
<b>山王中</b>	<b>75</b>	<b>58</b>	<b>73</b>	<b>62</b>	<b>62</b>

3 考察

**【国語A・B】**

・選択肢の中から記号で解答する問題に対しては、無解答はほとんどないが、指定されてその条件のもとに文章で書いて答える問題に対しては、正答率も県や国の数値がよりやや低くなっている。（問題に対する答えがわからないというよりも同様の答え方を要する学習活動が通常の授業では不足していることも原因の一つと考えられる。）

**【数学A・B】**

・数学Aについては、ほとんどの問題において県や国の正答率を上回っている。問題によっては、県や国の正答率をはるかに上回るものもある。数と式の目的に応じて変形する問題、空間図形や図形の合同について理解する問題に対しては、県や国に比べると低く、正答率も若干低いいため、苦手とする生徒が多くいることがわかる。  
 ・数学Bについても、ほとんどの問題において県や国の正答率を上回っている。問題によっては、国や県の正答率より20ポイント以上高いものもある。

**【理科】**

・理科は知識・活用ともに県や国の正答率とほぼ同様であり、問題によっては、県や国の正答率を上回るものもある。神経系の働きや回路と電流・電圧についての知識・理解、物質の成り立ちや原子記号に関する問題について苦手と思われる生徒が多い。

**【質問紙調査】**

・「自分には、よいところがあると思いますか？」との問いに対しては、「（どちらかと言えば）そう思わない」と答えた生徒が22%もいて、県や国の比率の倍近くの数値である。数値から判断すれば、自分自身に自信が持たずに、自尊感情が十分に育まれていない生徒の多さを表している。  
 ・「家の人に学校での出来事について話をしますか？」との問いに対しては、肯定的回答をした生徒は74%いるが、「しない」と答えた生徒が11%存在し、県や国の数値より高くなっている。

**【今後の対策】**

・授業改善のため、全教職員が外部指導者を招聘しての研究授業を実施し、生徒の学力向上に寄与できるアクティブラーニング的な授業やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業への改善を進めている。